



# ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROTOBO

2025年(令和7年)11月15日号 No.2007

## 目次

■ 廃車税率引き上げを巡る攻防	1
■ 統計速報	8
2025年1～9月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／8	
2025年1～9月の日ロ貿易／9	
■ トピックス	12
中央アジアプラス米国 首脳会合が開催／12	
三菱重工、トルクメニスタンでの大規模プラント契約に調印／12	
ロシア、日本人30人を入国禁止に／12	
東洋エンジニアリング、カザフスタンの尿素プラントに自社技術が採用／12	

## 廃車税率引き上げを巡る攻防 — 国民の抗議とプーチン政権の妥協 —

(一社)ROTOBO ロシアNIS経済研究所  
部長 齋藤 大輔

### はじめに

ロシア政府が11月1日から予定していた廃車税(リサイクル税)の税率引き上げを、突如先送りすることを決めた。国民からの反対意見が殺到し、ウラジオストクでは抗議集会が開かれるなど、社会的な反発が広がる中、最終的には経済界からも懸念の声が上がったことが背景にある。政府は「12月に実施する」として決定文書に公表したが、現時点では本当に引き上げが行われるかどうかは不透明だ。プーチン政権が一度打ち出した政策を延期するのは極めて異例。何があったのだろうか。現地の報道からまとめる。

### 1. 高出力車に増税、個人の優遇措置は縮小

2025年11月1日、ロシア政府は廃車税制度の改正を正式に決定し、ミシュスチン首相が政府決定に署名した。今回の改正は、税額の算定方法を変更して、実質的な増税を行うものであり、個人輸入による優遇措置の大幅な縮小を含んでいるという点で、制度全体に大きな影響を及ぼす内容となっている。改正内容をまとめると次のとおりである。

これまで税額は、エンジン容量と年式(車齢)に基づいて算定されてきた。しかし、今回の改正では、これに加えて、エンジンの出力(馬力)を新たな基準として導入する。対象となるのは、エンジン出力